

ほげ症候群の予防を目的としたほげワクチンの開発

Development of Hoge Vaccine for Prevention of Hoge Syndrome

本堂 貴敏 水内研究室 Takatoshi HONDO

1. 緒 言

ほげ症候群が近年大きな社会問題となっている⁽¹⁾。ほげ症候群の蔓延により、ソフトウェア生産性の低下やプログラミング初心者の混乱などの悪影響が多数報告されている。ほげ症候群が重大な精神疾患であり、かつ社会に多大なる悪影響を与えているにも関わらず、これまでほげ症候群に関する対策は全く行われてこなかった。本研究では、ほげ症候群を予防するためのワクチンの開発を目的とする。本研究では特にほげの原理に基づいたワクチン開発を試みる。

2. ほげ症候群の主な症例

ほげ症候群とは主に以下のような症状全般を指す⁽²⁾。

- 気がつくとき指が勝手に“hoge”と打っている。
- “hogan”と打とうとすると指が勝手に“hogen”と動く。
- 気がつくとき「ほげー」としている。
- 気がつくときほげだけで会話が成立している。

3. ほげの公式の導出

3・1 ほげの原理

ほげの原理は次式で与えられる⁽³⁾

$$\int_{-\infty}^{\infty} \text{hoge}(x, y) dx = \left(\frac{\partial \text{hoge}}{\partial y} \right)_{x=0} \quad (1)$$

ただし $\text{hoge}(x, y)$ はほげ母関数である.

3・2 ほげの公式

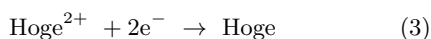
式 (1) から以下の式が自明である.

$$1 + 1 = 2 \quad (2)$$

本研究では上式をほげの公式と呼ぶ。

4. ほげワクチンの実験

前章での議論より以下の反応でほげ症候群が予防できると考えられる。



ワクチン生成装置のスペックを表1に示す。

[illegible]

Table 1. Motor parameters

R	$11.2\,\Omega$
L	$4.52 \times 10^{-4}\,\text{H}$
J_{m}	$1.29 \times 10^{-7}\,\text{kg} \cdot \text{m}^2$
$K_{\text{m}\phi} (= K_{\text{b}})$	$1.62 \times 10^{-2}\,\text{N} \cdot \text{m}/\text{A}$
F_{m}	$2.28 \times 10^{-7}\,\text{N} \cdot \text{m} \cdot \text{s}/\text{rad}$
E	$24\,\text{V}$
γ	84



Fig.1 The concept of hoge

ほげは世界を救う

Fig.2 Result of experiment

[illegible]

5. 結 言

ほげワクチンの開発は不可能であることが、4. 節の実験により示された。そのため、ほげ症候群にならないように予防をする必要があると考えられる。

文 献

- (1) 川村マサキ. ほげの可能性と適用限界に関する実験的研究. 日本ほげ学会ほげ工学部門講演会, pp. 324–366, 2010.
- (2) 日本ほげ医学会 (編). 本当は怖いほげの医学. 捕鯨出版, 2011.
- (3) 本堂貴敏, 水内郁夫. ばねの研究. 日本ばね学会誌, Vol. 72, No. 3, pp. 350–355, 2011.